

国際化学肥料ニュース（2012年11月）

肥料業界の2012年11月動態

* 中国政府は2013年のりん酸肥料に関する輸出関税等の政策案が確定されたようである。11月27日、中国政府国家発展改革委員会は来年りん酸肥料輸出政策について最終案を纏め、中国政府国務院に提出した。その最終案の主な内容は下記の通りである。

1. りん酸肥料の輸出可能な非需要期は5月～9月の5ヶ月とする（今年は6月～9月の4ヶ月）
2. 非需要期の輸出関税は現在の7%から2%に引き下げる。ただし、一部の委員及び中国財政部は輸出関税を5%にする意見があり、2案併記の形。
3. 輸出関税の計算に使う輸出基準価格は引き上げる。DAPは人民幣3400元/トンから300元引上げ、3700元/トンとする。MAPは人民幣2900元/トンから100元引上げ、3000元/トンとする。

当該案は中国政府国務院の審査を経て、12月中旬に公表する予定。

* 11月10日、中国山東省濰坊市に開かれた第13回りん酸肥料全国大会において、中国政府発展改革委員会の高官が「中国化学肥料の発展状況及び管理政策の方向」の講演を行った。その主な内容は下記の通りである。

1. 新年度に向けて、化学肥料の冬期備蓄が順調に展開し、肥料メーカーの資金圧力を緩和されるだろう。
2. 現行の化学肥料の輸出関税に関する政策が維持していく。来年も需要期/非需要期の差別輸出関税を維持する。枠組に大きな変化がないが、非需要期の期間設定や輸出関税税率に調整を行う。
3. 今年化学肥料の非需要期の前倒しが市場への影響が大きい。以前のような10～12月に化学肥料価格が高い状況が幾分改善され、来年春期の化学肥料価格が下がるだろう。
4. 肥料メーカーの経営は需要期/非需要期に応じて変化が必要である。

* 今年中国化学肥料輸出政策の関係で、肥料輸出量が大幅に減少した。今年1～10月中国の化学肥料生産量5732万トン、前年度より13.7%増、輸出1075万トン、前年度より11.7%減。各肥料の輸出量は尿素260万トン(36.2%増)、DAP270万トン(6.3%減)、MAP38万トン(51.2%減)。

この状況を受け、中国国内に肥料価格競争の激しさが増し、企業の利益が大幅に減少した。中国政府はその局面を打開するため、2013年の化学肥料輸出関税政策に修正を加える。噂では、非需要期の輸出関税が2%にするほか、非需要期の期間延長もあり得るようである。中国農業集団ホールディングのある高級幹部は、中国政府関係部門がすでに輸出関税の修正について大手メーカーに数回意見聴取を行ったと暴露した。

- * インド STC 社は 10 月 31 日締め of 尿素入札に 22 社計 187.5～217.5 万トンの応札があると発表した。その中に 80 万トンの応札価格が CFR410 ドル/トン未満であった。これら低価格尿素の輸出元はイランと中国と推測される。
- * ベトナム「経済新聞」11 月 23 日の記事によれば、ベトナム 10 月の尿素輸入量が昨年同期の 17.8 万トンから 4.5 万トンに急減した。国内の金鷄、Phu My、Ha Bac の尿素メーカー 3 社は稼働率が高く、国内尿素需要をほぼ供給できる。今年 1～10 月尿素輸入量が 41 万トン、昨年同期の 88.8 万トンより 54%減少した。また、2013 年ベトナム国内化学肥料の需要量が約 1030 万トン、その内訳は尿素 220 万トン、硫酸 85 万トン、加里肥料 95 万トン、DAP90 万トン、NPK 化成肥料 380 万トン、りん酸肥料 180 万トン。尿素、化成肥料、りん酸肥料はほぼ自給できるが、加里肥料は全量輸入に依存する。
- * イラン 10 月の尿素輸出量が 20.4 万トン、昨年同期の 13.1 万トンより大幅増加した。今年 1～10 月イランの尿素輸出量が 245 万トン、昨年同期より 7%増。アメリカ等による国際的な経済制裁の影響で、イランが低価格路線を推進し、インド等に積極的に輸出した。
- * パキスタンは 11 月 30 日頃の尿素入札を行っている。入札量は 5 万トンである。必要な資金は日本政府からの援助である。また、サウジアラビアも 12 月にパキスタンに 1 億ドルの資金を貸与して、サウジアラビアから 25 万トン尿素を輸入する資金に充てる。パキスタンは天然ガス不足で、国内の尿素生産が減少し、不足分は輸入に依存する。
- * アーガス傘下の FMB は 11 月 15 日の報道によれば、塩化加里大手の BPC から中国に輸出する予定の 6 万トン塩化加里が 11 月初にアメリカに転売された。中国国内塩化加里市況が低迷で、中国側輸入先の中国農業ホールディングは違約金まで払って売買契約をキャンセルした。
また、アメリカ mosaic 社とカナダ Potash Corp は共同声明を発表し、塩化加里市況の低迷に対応するため、カナダ Saskatchewan 州の 2 ヶ所加里鉱山を停止するとともに mosaic 社の塩化加里供給量を減らす。但し、両社とも現状の市況低迷が短期間で終了し、2013 年から回復に向かうだろうと予測している。
- * インドの輸入 DAP 価格が下落。インドからの消息によれば、ヨルダンからインドに輸出する DAP の CFR 価格が 560 ドル/トンに下がった。今年 5 月から CFR 価

格 580 ドル／トンに維持してきた。なお、インド今年 4～10 月の DAP 販売量が 515.6 万トン、去年同期より 79.3 万トン減少し、減少率 13.3%であった。

ブラジルの MAP 輸入量が減少した。ブラジル税関のデータによれば、今年 1～10 月の MAP 輸入量が去年同期より 21.1 万トン減の 150.2 万トン。OCP はブラジルに昨年より 17%増の 77 万トンを輸出したが、アメリカとロシアがそれぞれ 40%と 31%減であった。

大手各社の営業業績

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

* インド Zuari 社は Gujarat 州に 110 万トン／年の DAP 工場を建設する計画。当該工場は一つの硫酸プラント、一つの 50 万トン／年のりん酸プラントと一つの蒸気造粒プラントから構成され、DAP のほかに化成肥料も生産できる。総投資額 7.43 億ドル。

* 日本 IHI 社はインドネシア国営肥料 Pupuk Kujang 社と共同で石炭を原料とするアンモニア合成装置の開発に合意した。IHI は高温造気炉を開発し、廉価の褐炭を原料として水素を作り出し、アンモニアを合成する技術を提供する。2014 年にジャカルタ近郊で褐炭 50 トン／日の試験装置を建設し、2016 年に褐炭 500～1000 トン／日の大型プラントを建設する予定。当該プロジェクトの建設費用 1000 億円は Pupuk Kujang 社が負担する。

Pupuk Kujang 社はこのプロジェクトのアンモニア装置をもとに尿素生産能力が 90～100 万トン／年の Kujiang 第 1C 工場を建設し、2017 年完成する予定。Kujiang 第 1C 工場の投資額は 8 億ドルと予定している。

* アメリカ CF 社は 2016 年まで 38 億ドルを投資し、ルイジアナ州とアイオワ州にある 2 工場を拡張すると発表した。地元産のシェールガスを原料として 210 万トン／年のアンモニア合成プラントを新設し、尿素と硝安を増産する。同じ動きはほかの会社も見られる。今年 9 月にエジプト Orascom 社は 14 億ドルを投資し、アイオワ州に窒素肥料工場を建設し、2015 年に完成する予定と発表した。同じ 9 月にアメリカ CHS 社も 10 億ドルを投資し、ノースダコタ州に窒素肥料工場を建設すると発表した。また、カナダ Potash Corp もルイジアナ州の肥料工場がアンモニアの生産を再開する予定と発表した。

アメリカに使う窒素肥料の半分以上が輸入に依存し、主にカナダ、トリニダードトバゴ及びウクライナやロシアから輸入している。

- * アフリカ最大のセメントメーカーDangote 社はナイジェリア Edo 州の Agenebode に尿素工場を建設する。当該プロジェクトの総投資額 20 億ドル、2015 年と 2016 年にそれぞれ 2200 トン／日のアンモニア工場と 3850 トン／日の大粒尿素工場を各 2 工場完成する予定。着工は 2013 年 1 月、設計担当は Saipem 社である。
- * アメリカ Agrifos 社はカリフォルニア州 Pasadena にある硫安工場の近辺に新たに窒素肥料輸出専用の工場を新設する計画を発表した。当該化学肥料工場の建設と経営は Agrifos 社の子会社が担当する。なお、Agrifos は 11 月 1 日にその Pasadena 硫安、硫酸、チオ硫酸アンモニウム工場の全株式を Rentech 窒素肥料社に譲渡した。
- * インド Zuari 社はアラブ首長国との間に DAP 工場の建設に関する覚書を交えた。当該 DAP 工場はインド Zuari 社初の国外工場、アラブ首長国の Ras al Khaimah に建設する。工場は発電所、海水を淡水化工場、プライベート埠頭を含め、総面積 27 万 m²、総投資額 8 億ドル、完成後、100 万トン／年の DAP が生産できる。

その他

- * カナダ Potash Corp がイスラエル ICL を買収する観測が浮上している。但し、本件買収はイスラエル政府の許可が得られるかどうか不明である。
- * ロシアのりん酸肥料メーカーPhosagro 社はベルギーの Prayon 社との間に、Phosagro 社の工場で排出した副産りん石膏からレアアースを抽出する覚書を交えた。Prayon 社が開発したりん石膏からレアアースを抽出する技術を Phosagro 社傘下の Cherepovets 工場及び Balakovo りん酸肥料工場で実施する予定。この 2 ヶ所の工場が年間それぞれ 750 万トンと 900 万トン副産りん石膏を排出し、その有効利用が期待される。関連する工場と設備等が 2013 年に完成し、稼働する予定。りん石膏から抽出されるレアアースは放射線物質を含まず、品質が非常に良いと言われる。